

東北大学 関東良陵同窓会

春季総会のご案内

新緑の候、会員各位には、益々ご清栄のことと大慶に存じ上げます。

さて、東北大学良陵同窓会関東連合会春季総会を下記により開催したいと存じますので、なにとぞ万障お繰り合わせのうえ、ご家族ご同伴にて、ご出席を賜りたくご案内申し上げます。

今回の総会では、特別講演を大内憲明先生（昭和五十三年卒、東北大学医学部長）にお願ひ致しました。

テーマは最近重要な問題となっている「東北大学医学部の現状・特に東日本大震災後の取り組みについて」（講演要旨後述）と題してご講演をして頂きます。

懇親会のアフターデナーコンサートは、本会会員の千国宏文先生（昭和四十三卒・戸塚MKクリニック院長）をお迎えして素晴らしいテノールの歌声（曲目等後述）、をお楽しみいただく予定になっております。

薫風の季節にふさわしい充実した総会になるものと思ひますので、奥様はじめご家族の皆様ともども、ご出席をくださいますよう、皆々様のお越しを心からお待ち申し上げます。

東北大学良陵同窓会

関東連合会 会長

押田茂實

総会プログラム

一、期日 平成二十五年六月十五日（土）

二、場所 市ヶ谷私学会館アルカディア

電話03（3261・9921）

JR・地下鉄市ヶ谷駅から徒歩二分

三、受付開始 午後四時より

四、総会 午後四時三〇分より開会

開会の辞

会長挨拶

経過報告

各役員報告・その他

閉会の辞

五、特別講演 「東北大学医学部の現状・特に東日本大震災後の取り組みについて」

大内憲明先生（昭和五十三年卒・医学部長）

大内憲明先生（昭和五十三年卒・医学部長）

部長）

六、懇親会 午後六時より開会

アフターデナーコンサート

テノール 千国宏文先生（昭和四十三卒）

会員 一〇〇〇〇円

ご家族 五〇〇〇円（一人）

八、出席申込み 同封の振替用紙に会費と共に申込み下さい。

下さい。

（会費納入のお願い 本総会会費及び年会費のご納入を四

ページ記載要領にてお願い致します）

春期総会特別講演要旨

東北大学医学部の

現状

特に東日本大震災後の
取り組みについて

東北大学医学部長

大内憲明

(昭五三卒)

初めに、関東良陵同窓会会員の皆様におかれましては、二年前の3・11の東日本大震災からの復旧にあたり、母校への多

大なるご配慮・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今、東北大学では震災からの

本格復興に向けて様々なプロジ

エクトが展開されていますが、

その中で、特に医学部・医学系

研究科に関連する事項として、

(一) ゲノム情報による個別化

医療を目指した「東北メデイカ

ルメガバンク機構」、及び

(二) 地域医療復興支援事業で

ある「総合地域医療研修センタ

ー」について説明させていただきました。

(一) では、バイオバンクとゲ

ノムコホート研究に立脚した次

世代イノベーションが期待され

ており、

(二) では、皆さまがお馴染みの

良陵会館が大改装され、昨年から

医療技術トレーニング「スキ

ルスラボ」が設置されました。

一方で、東北地方は以前から

医師不足が指摘されてきました

が、3・11大震災によって、

その状況が悪化しています。

その対策として、前記二事業

とともに、医学部定員増など新

たな戦略を打っているところで

す。

本講演では、今後の医師偏在

の解消に向けた地域医療対策と

しての医学部入学定員増と、メ

ガバンク機構、研修センターの

諸計画を見据えた「地域医療復

興センター」の設置等について

もちろん、「研究第一主義」大

学医学部としての最新の研究活

動の一端をご紹介します。

関東には昭和五三卒の同級生

が多数おられます。

皆さまとお会い出来るのを心

より楽しみにしております。

プロフィール

昭和53 東北大学医学部卒業

同 59 米国国立がん研究所

同 60 NCIフェロー

同 60 医学部銀賞受賞

平成10 医学部金賞受賞

同 9 黒川俊男がん研究

同 5 基金賞

同 5 三越医学賞を受賞

同 11 東北大学教授に就任

同 13 第一回朝日が人大賞

同 14 を受賞

同 23 東北大学病院副院長

同 18 第十九回日本乳癌

同 24 学会学術総会会長

同 24 第三次対がん総合

同 24 戦略研究事業

同 24 「がん対策のための

同 24 戦略研究」リーダー

同 24 東北大学大学院医学

同 24 系研究科長

同 24 医学部長

写真(上)は 大内憲明先生

先生の現職は、以下の通りです。
東北大学大学院教授、医学系研究科長
東北大学医学部長
東北大学大学院医学系研究科外科病態学講
座腫瘍外科学分野教授
同先進外科学分野教授(兼務)
東北大学病院腫瘍内分泌外科長・移植再建
内視鏡外科長(兼務)

東北大学関東良陵
同窓会長に就任して

押田茂實(昭四二)

平成二十四年六月に会長に推挙されましたが、飯野正光副会長を始めたくさんの役員の方々に支えられて、活動を開始しています。これまでの会長の方々がさまざまなあげてきた成果に何を追加できるか思索しています。

最近の卒業後の研修制度の改変に伴って、関東出身の医学生は初期研修生活とその後引き続く後期研修、専門医の獲得、専門的研究に対する対応などの問題を点を正確に把握し、先輩同窓生として具体的に関与できればと思っています。関東の医学部において活躍している大学の教授・準教授も多く、ほとんど全ての科目を網羅しております。また、専門的研修病院の指導者や院長先生も充実しており、最近の研修では開業医の研修を希望している例も増加しています。研修医の参考になる同窓生の名簿の作成とその情報の正確な伝達法を検討し、今後の同窓会員となる可能性の高

い若い研修医に希望と夢を与えることができればと思います。

役員にもできれば平成卒業の若い同窓生にも参加して頂き、徐々に若返り、各種イベントにも企画・参加していただければ、うれしいかぎりです。

昭和六十年に四十二歳で法医学教授になった頃に、黒川利雄元総長を囲む大きな良陵会が開催されたことを記憶していますが、あの当時の七十歳以上の同窓生を遠くから尊敬し仰ぎ見ていた記憶が強烈に残っています。

自分が七十歳になつてみて、若い後輩諸君からどのように見られているか推察すると、昔の自分が感じていた様子とは大いに異なるように感じます。時代の変化や平均寿命の延長などを考慮しても、先輩のすばらしい活躍には及びもつかないかもしれません、できる範囲のことをジツクリと一歩ずつ前に進めてゆきたいと痛感しています。

本年の同窓会総会には、大内医学部長においでいただくことになつており、昭和五十三年卒業の同級生の皆さま(卒業生が百七十九名で、関東にも多数の同級生が居られます)に開催の際のご支援をお願いしております。

同窓会総会で多くの皆さまにお会いすることを楽しみにしております。

祝・叙勲会員

荒井他嘉司先生(昭和三六卒)は、平成二十四年十一月十五日に瑞宝中綬章を受勲されました。
先生は本会顧問・災害医療センター名誉院長です。

女医部会開催 平成二十五年
七月二十日に開催の予定です。

訃報

神津康雄先生(昭和一九卒 本会顧問 元会長 九十四歳)は、去る四月十六日に永眠されました。
お別れの会は、五月二十九日の午後五時から東京・渋谷の東郷記念館内の水交会で開かれます

アフターディナー・コンサート

今期総会・懇親会(六月十五日開催予定)アフターディナー・コンサートには、本会会員の千国宏文先生(昭和四三年卒)が、テノール歌手としてご出演なさいます。

千国先生は、卒業後東大産婦人科に入局、産婦人科文部教官を経て、現在は戸塚MTクリニック院長・理事長としてご活躍されています。学生の頃からテノール歌手として研鑽をつまれており、今回その美声をご披露いただくことになりました。

なお、ピアノ伴奏は、東京芸大・同大学院作曲科ご出身の太田弥生さんが、つとめられます。(写真は千国宏文先生)

プログラム

オーソレミオ・帰れソレントへ
わすれな草・星も光りぬ(オペラ「トスカ」より・ブッチーニ作)
ネクストドルマ・誰も寝てはならぬ(オペラ「トゥランドット」より)
清きアイダ(オペラ「アイダ」より・ヴェルティ作曲)その他



世にも珍しいおはなし

続編

四年間に三回も入学試験を受けた世代について

小山田日吉丸

(昭和三十年卒)

寮生活では、寮雨は忘れられない思い出です。それは部屋の窓からする先輩たちの小便のことです。朝起きると窓をあけていちもつをひっぱりだし、思い切つて放出するのですが、タイミングが合うと、隣の棟の窓にも同じ仲間が居て、お互いにオッスと朝の挨拶をしながらさも気持ちよさそうな時間を共有している様は、私たち新入生にはとても真似のできるものではありませんでした。私の部屋は一階にありましたので、窓を開けていると、日中でも時々しがきが入ってくることもありました。そのような訳で各部屋の窓の下は畳一枚分ぐらゐの範囲で草は生えておりませんでした。

このような高等学校の生活も、半年くらい経つと、「この学年はこれでおしまい」という話がだんだんと本格化してまいります、ある程度覚悟はしていたものの、皆それぞれどこかの新制大学の受験を真剣に考えるようになってまいりました。

ここで、平成二十四年九月三十日の

産経新聞に載つた旧制高等学校に関する寮歌祭物語⑨から一部を紹介させていただきます。

「旧制高校生が「エリート」の卵なりえたのは、ひとえに帝国大学へのパスポートをもつていたからである。帝国大学の総定員は、旧制高校の総定員をやや上回る数で推移していたから、人気大学の人気学部(学科)を望まねば、ほぼ、どこかの帝国大学へは進学できた。」

つまりこの一文からも、終戦のあとまで続いていた従来の日本の学校制度のなかで、旧制高等学校の生徒たちの心の中に期するものがどんなものであったか、ある程度、理解できるものと思えます。したがって私にも、現在学んでいるこの高等学校が消滅してしまうという現実のなかで新制大学の受験を考えると、帝国大学に心が向いてしまうのも、自然の成り行きでして、何となく東北大学を選んでみたというわけです。しかし、既に時代は変わり、受験となると当時の新制高等学校からも沢山の挑戦者があつたのですから、私もある程度の競争を覚悟せねばならず、ついにこの間(前年)のことを思い出しながら一応の受験勉強はしたつもりです。

私は末っ子でして、終戦後だんだんと世の中が落ち着いてきはじめるかと世の中のみんなから「お前は医者になつたらどうか」と言われ続けていたもので、いつの間にか自分は医者になるんだと思ひ込むようになっておりま

した。ところが、新制大学は教養学部二年と本学部二年(ただし医学部は四年)という制度のなかにあつて医学部だけは教養学部がなかったものから、(私もそうですが)医学部志望の人は大部分が理学部教養部を目指したようです。入学試験は三月ごろにあつたかと思いますが、当時はまだまだ混乱の最中でして、無事に合格した私たちの入学式は昭和二十四年の六月に行われたように記憶しております。つまりこれで二年続けて受験をしたということですが。当時の東北大学の教養学部は、仙台市からチンチン電車で長町まで行き、そこで降りた電車に乗り換えてひと駅かふた駅ほど先にある駅の前の旧陸軍幼年学校の校舎が利用されておりました。

そこで二年間勉強したあと、医学部志望の人たちはよそからもやってくる受験生たちと一緒に入学試験を受けなければならず、そもそも机を並べて授業を受けている級友だけで医学部の定員を遙かに超えておりましたので、どうなることやらと思ひながらまた受験勉強に励んだわけです。

入学試験は昭和二十六年の三月ごろにあり、私は幸い合格しましたが、仲の良い級友のなかで何人かは目的を果たせなかつた人も居たため、当時大変寂しい思いをした記憶が蘇つてまいります。

以上を纏めますと、昭和二十三年に旧制高等学校に入学した私たちの世代は、一年後の昭和二十四年に新制大

学を受験し、そのあと医学部を目指した人たちに限り二年後の昭和二十六年にも受験を経験したということですが。つまり、四年の間に確かに三回受験したことがお分かり戴けたことと思ひます。八十一歳になつたいまでも、なんとまあうまくすり抜けてきたものだ、当時のことがいろいろと懐かしく思い出されるこの頃です。

ここまで思い出すことができるということとは、まだボケていないということでしょうか。

以上、世にも珍しいおはなしをここに伝えさせていただきます。

これで終わります。

(平成二十四年十月六日提出原稿です。筆者は本会顧問)

会費納入のお願い

本年度(平成二十五年度)会費三千円を同封の振替用紙により納入ください。総会会費も同様にお願ひ致します。

東北大学良陵同窓会

関東連合会東京支部

〒247-0072

神奈川県鎌倉市岡本

二二二・一七〇四

TEL & FAX

〇四六七(四五)〇二八七